

現代中国語における“在那儿+VP”について

青 木 萌

Abstract

This paper discusses the demonstrative pronoun “*nar* 那儿” in Mandarin Chinese with concrete examples. “*nar* 那儿” denotes a place which is farther away. It can also express psychological distance. Furthermore, this paper also explores the preposition “*gen* 跟” in Northern usage, which introduces a locative phrase, with using concrete examples.

キーワード：指示代名詞，那儿，在，跟，这儿

1. はじめに

“在那儿”は、これまで、時として具体的な場所を示さず、[持続]や[進行]の意を表す場合に用いられる、といった解釈がなされてきた¹⁾。しかし、以下の(1)と(2)の“在那儿”について考えると、疑問が生じることになる²⁾。

(1) A：你这睡觉能解乏吗？到时候你今天上课又打盹儿。

B：哎呀，妈，您别这一大早上起来就在那儿唠叨行吗？（テレビドラマ『家有儿女（第四部）』第56話）（朝っぱらからぶつぶつ言わないでよ）

(2) A：哎呀，大不了我拿我的命抵这个碗不就完了吗。

B：去，别在那儿瞎说了，你那小命能值几个钱？（テレビドラマ『家有儿女（第四部）』第38話）（でたらめ言うんじゃない）

なぜなら、引用先のテレビドラマによると、(1)は以下の図1が、そして(2)は以下の図2が示すように、いずれも話し手と聞き手との間の距

離が極めて近く、物理的に見ると“这儿”を用いて然るべき状況であるからである。



図 1 (1) の場面



図 2 (2) の場面

では、従来の“在那儿”に対する見解は完全に合理的であると言えるのであろうか。また、具体的な場所を示さず[持続]や[進行]の意を表す場合に用いられる、といった見解に到った要因は果たして如何なるものなのだろうか。本稿では多くの実例を用いて、(1)(2)の類の“在那儿”について詳述したい³⁾。まず、次節では先行研究を紹介し、その中から問題点を指摘する。

2. 先行研究

本節では、はじめに五名の研究者の記述を取り上げて、前節の(1)(2)の類の“在那儿”が如何に解釈されていたのかを確認する。

丁声树等 1961:154 は、この類の“在那儿”について、「ちょうど～してるところだ」という意味を表し、場所に重点を置かないと述べた。

桜井 1966:26 では、“那里”は、具体的な場所を指しているのではなく、前の“在”と連語になり、その後の動詞に「今まさにそうしている」という気持ちをそえている、といった主張がなされている。

伊原 1982:3 は、“他在那里吃饭”(彼は食事をとっているところだ)という例を挙げて、「ここでの「那里」はその指示代詞としての機能をほとんど失い、具体的には何も指していない。」と指摘した。

朱德熙 1982:87 では、「動作あるいは行為の持続を表し、実質的に場所を指示しない」と論じられている。

呂叔湘主编 1999:647 においては、「場所の意味は、時に、はっきりとせず、主に「ちょうど進行しているところだ」ということを表す」といった解釈

がなされている。

以上の研究者の見解に基づくと、この類の“在那儿”は、具体的な場所を示さず、[持続]や[進行]の意を表す場合に用いられ、“那儿”は、通常の指示代名詞の役割を果たしていない、と理解することができる。また、既述の如く、桜井 1966:26 によると、“那里”は、具体的な場所を指しているのではなく、前の“在”と連語になり、その後の動詞に「今まさにそうしている」という気持ちをそえているとし、“在”と“那儿”をひと纏めにして捉えているのが分かる。だが、なぜこのような見解へと到ったかについて、過去に詳述した論考を寡聞にして知らない。また、従来は、実例を多く挙げているとは言い難く、前後の文脈や映像言語資料による考察を重視していないため、上で見た見解が十分な説得力を持つとは断定し難い。そこで、以下、新たに四名の研究者の記述を追加し、上で見た研究者がなぜこのような見解に到ったのかを指摘し、さらにそれを踏まえて、本稿の主張を提示したい。

まず、呂叔湘 2002 (1985) :155 では、「近指和远指的分別，基本上是空間的，但也往往只是心里的。」（近指と遠指の区分は、基本的には空間的なものだが、ただ心理的なものによって決定される場合もある）と論じられている。この中の「ただ心理的なものによって決定される場合もある」という記述は注目に値する。

次に、木村 1992:185 は、「“这”と“那”の使い分けは、基本的には、話し手と指示対象の間の物理的あるいは心理的距離によって決まるものと考えてよい。自分に近いか遠いか、言い換えれば、ワレの領域に属するものとみるか否かである。」と述べ、さらに「自分にとって遠いと感じられる対象は、次のように、聞き手に近いものであっても遠称の“那”が用いられる。」（木村 1992:187）と指摘しており、啓発的である。

以上に加えて、以下の王亚新 2006:27 と房玉清 2008:55 の記述も特筆に値する。

「由于汉语指示词是基于对空间距离的认知，所以它在表示指称时带有很强的“远近感”。即使当空间指称转变为对时间，话题等更为抽象的对象指称时，这种源自空间距离的远近感仍然会附着在“这/那”上。」（王亚新 2006:27）（中国語の指示詞は空間的距離に対する認識に基づいている。そのため、指示を表す時に強い「遠近感」を伴っている。たとえば空間指示から時間や話題など、さらに抽象的な対象への指示へ変化したとしても、こ

の空間的距離に由来する遠近感は依然として“这”や“那”に含まれている。）

「“那”表示远指，或者把某人或某物跟其他人或事物区别开来。」（房玉清 2008:55）（“那”は遠指，あるいは，ある人や物と他の人や事物を区別することを表す。）

以上の記述を踏まえると、前節で挙げた(1)(2)の類の“在那儿”の“那儿”は、話し手が心理的に遠いと認識した時に用いられ、このように心理的な距離に重点が置かれ、物理的な距離に重点が置かれないが故に、従来の研究者は、この類の“那儿”は具体的な場所を指示していないといった見解を下すに到った、と推測することができる。従って、以上で追加した研究者（呂叔湘 2002（1985）:155，木村 1992:185，王亚新 2006:27，房玉清 2008:55）の記述は極めて啓発的であると言えるが、これらの研究者は“在”と“那儿”が共起した場合、即ち(1)(2)のような“在那儿+VP”については、多くの事例を基に詳述していない。そこで本稿では、“在”と“那儿”は、ひと纏めにして捉えるのではなく、より厳密に、“那儿”は指示代名詞として、話し手や書き手が心理的に遠いと認識した時に用いられ、“在”は前置詞として、この“那儿”を導く役割を担う、と主張したい⁴⁾。そのため、松村 2017 で用いられている論理式を借用すると、当構文（例えば上の(1)の“在那儿唠叨”の部分）は以下のように分析することができる。この式から、指示代名詞の“那儿”と前置詞の“在”を分けて解釈しているのが看取できる。

- (1) ’ ブツブツ言う ～ガ 存在スル ～ガ ～ニ
 在’ [你, 那儿, 唠叨’ (你) & 在’ { 唠叨’ (你), 那儿 }
 スル ～ガ ～ニオイテ ～トイウコトヲ

この式の全体の読みは「あなたが、あそこにおいて、あなたがブツブツ言い、かつ、それ（あなたがブツブツ言う）があそこに存在するということをする」となる。“唠叨’（你）”の部分は「あなたがブツブツ言う」という意味を表し、“在’{ 唠叨’（你）, 那儿 }”の部分は「あなたがブツブツ言うがあそこに存在する」という意を表している。

では、次節で実際に多くの例を用いて検証を行う。以下、考察の便宜を図り、本稿で主として取り扱う文を「“在那儿”構文」と呼ぶことにする。

つまり、当構文は、“(NP) + 在 + 那儿 + VP”によって構成され、“那儿”は、話し手や書き手が心理的に遠いと認識したために用いられると見なし、“在”は前置詞として、この“那儿”を導く役割を果たす、と考えることにする⁵⁾。

3. 実例による検証

実例はテレビドラマと小説から収集したものをを用いるが、テレビドラマのような映像言語資料は、話し手と聞き手との間の距離を客観的に観察することができ、書記言語資料よりも的確な考察が可能となるので、まず次の3.1ではテレビドラマから収集した例を挙げる。そして、その後の3.2において小説から収集した例を挙げることにする。

3.1 テレビドラマにおける例

まず、本稿の冒頭で挙げた(1)の“您别这一大早上起来就在那儿唠叨行吗”と(2)の“别在那儿瞎说了”における“在那儿”構文について論じる。

(1)の“您别这一大早上起来就在那儿唠叨行吗”は引用先のテレビドラマによると、話し手B(息子)の機嫌がとても悪い。なぜなら、(1)のやりとりから判然とするように、話し手A(母親)が、話し手B(息子)に対して、朝からうるさく注意したからである。故に、図1からも分かるように、二人の距離は極めて近いにも関わらず、話し手B(息子)は“那儿”を用いて、自分自身を“这儿”、話し手A(母親)を“那儿”と区別し、心理的に両者の間に距離を作り、話し手A(母親)に対する嫌悪感を明示させたと考えることができる。

(2)の“别在那儿瞎说了”は図2が示すように、話し手A(息子)と話し手B(父親)との間の距離が極めて接近しているが、話し手B(父親)は話し手A(息子)に対して嫌悪感を抱いたが故、“那儿”を用いて、心理的に距離を置いたと考えられる。なぜなら、話し手A(息子)は、非常に大切な骨董品を割ってしまったが、“哎呀，大不了我拿我的命抵这个碗不就完了吗”(ああ、まあ俺の命でこのお碗の償いをすればいいじゃないか)と言い、投げやりな態度をとったからである。

さらに三つの例を用いて、本稿の主張が妥当であることを証明したい。

(3) A: 我跟你说明啊，我不同意跟你同居。你好好想想，这同居就是试婚。

B: 那我可得适应一下。这后半辈子啊，都得跟你生活在一起。万一以

后咱俩不行了，各回各家，各找各妈，我也得早知道啊。我可是认真的啊。有能耐你就把拳头打下来，打在我身上，别在那儿抡空拳，怪没出息的。(テレビドラマ『无懈可击之美女如云』第12話)

(3) で問題となる箇所は“别在那儿抡空拳”(拳を振り回さないでよ)である。この場面では二人の人物が登場する。一人は男性(話し手A)で、もう一人は女性(話し手B)である。引用先のテレビドラマによると、この時、女性(話し手B)はソファでうつ伏せになり、男性(話し手A)は女性(話し手B)の上に乗るようにしてマッサージをしている。注目に値することは、二人の身体が密着しているにも関わらず、“那儿”が用いられているということである。なぜか。というのは、この場面では、男性(話し手A)が女性(話し手B)に“我跟你说啊，我不同意跟你同居。你好好想想，这同居就是试婚”(言っておくけど、俺はおまえとの同居に同意しないよ。よく考えてごらん、同居は結婚のお試しなんだよ)と言うと、女性(話し手B)は“那我可得适应一下。这后半辈子啊，都得跟你生活在一起。万一以后咱俩不行了，各回各家，各找各妈，我也得早知道啊。我可是认真的啊”(それなら慣れないといけないわ。残りの人生はあなたと送らなきゃならないんだから。万が一合わなかったら、それぞれの家に帰って親の元に戻るのよ。早く知っておかないとね。私は本気よ)と言い、男性(話し手A)を些か唆す。すると、男性(話し手A)はげんこつを握り、女性(話し手B)を叩くそぶりを見せる。女性(話し手B)はこの動作を嫌ったのである。そのため、“那儿”を用いて、心理的に、女性(話し手B)と男性(話し手A)の領域を切り離し、両者の間に一種の距離を作ったと解しえる。この女性の嫌悪感は、女性(話し手B)が言った“有能耐你就把拳头打下来，打在我身上”(やれるなら拳を振りかざして、私を殴れば)と“怪没出息的”(本当に情けないんだから)というセリフからも容易に理解できる。

(4) A: 爸，早！

B: 我昨天一晚都没睡好。

A: 我也是啊。

C: 欸，欸，欸，你们两个在那儿嘀嘀咕咕什么东西啊？是不是有什么秘密瞒着我？你，给我老实交代，那一夜把海华带哪儿去了？快给你老子好好报告一下！(テレビドラマ『花非花雾非雾(TV版)』第22話)(お前たちはぶつぶつ何をいつているんだ)

(4) では三人の人物が登場する。息子(話し手A)と“海华”という名

の女性(話し手B),そして父親(話し手C)である。三人とも居間のソファーに座り,互いの距離は極めて近い。ところが父親(話し手C)の“你们两个在那儿嘀嘀咕咕什么东西啊”というセリフでは,息子(話し手A)と女性(話し手B)が目の前にも関わらず,“那儿”が用いられている。なぜだろうか。妥当だと思われる理由を以下に述べる。それはすなわち,父親(話し手C)は,最近,息子(話し手A)と女性(話し手B)の関係が特殊になってきたのを気にしていたが,この時,息子(話し手A)と女性(話し手B)は,父親(話し手C)に聞かれないように,わざと小声で嬉しそうに話をしたので,父親(話し手C)は,二人(息子(話し手A)と女性(話し手B))が何を話しているのかが分からず,ある種の疎遠感を覚えたからである。この父親(話し手C)の心境は“是不是有什么秘密瞒着我?你,给我老实交代,那一夜把海华带哪儿去了?快给你老子好好报告一下”(何か隠し事でもあるのか。ちゃんと俺に白状しろ。あの晩,海華(話し手B)をどこへ連れて行った。はやく報告するんだ)というセリフからも看取できる。そのため,父親(話し手C)は“那儿”を用いて,心理的に,父親(話し手C)を“这儿”とし,一方,息子(話し手A)と女性(話し手B)を“那儿”として捉え,二つの領域に区切ってしまったと考えることができる。

(5) 刘星,你听我解释,现在啊,我这个大脑就警告我,不能叛变,叛变,叛变是可耻的!可是我这不争气的肚子呀,又在那儿咕咕叫。你说这咕咕叫就得了,还在那儿跟我说,说叛变吧,叛变了就有好吃的,好吃的好喝的。(テレビドラマ『家有儿女(第四部)』第10話)

ここでは“我这不争气的肚子呀,又在那儿咕咕叫”(僕のこの情けないお腹はまたグググと鳴っている)における“那儿”について考える。この場面は,(5)の文脈を見ると分かるように,弟(話し手)の意思としては,兄(“刘星”)を裏切らず,空腹に耐え,この場で兄(“刘星”)と苦を共にしたいと思っている。要するに,弟(話し手)は“我这个大脑就警告我,不能叛变,叛变,叛变是可耻的”(僕のこの大脑は僕に警告しているんだ。裏切ってはいけない,裏切り,裏切りは恥ざべきことだ)と言う。しかし,弟(話し手)は,一方で,その弟(話し手)自身の意思とは反し,生理的に空腹には勝てない状態にある。なぜなら,弟(話し手)は先ほど母親に逆らい,晩御飯を食べさせてもらえなかったが,家に帰って,母親に服従すれば,母親が作ったご馳走にありつけるからである。そのため,弟(話

し手)は“说叛变吧,叛变了就有好吃的,好吃的好喝的”(裏切るんだ,裏切ったら美味しいものが食べられるぞ,うまい食べ物飲み物があるぞ,と言っているんだ)と言うのである。従って,話し手である弟は,“那儿”を用いて,「(お腹が)グウグウと鳴る」という望ましくない生理現象を疎遠的に捉えて,弟(話し手)のやむを得なさを的確に表現し,兄(“刘星”)の寛大なる許しを得ようとしたと解釈することができる。

さて,以上の考察を頼りに,次は小説から収集した例に対して検討する。

3.2 小説における例

以下,(6)(7)を順番に見ていこう。

(6)“我呢?也一样,只是元年冬天到北京,还被人骂过几次,后来骂我的人也被警察剪去了辫子,我就不再被人辱骂了;但我没有到乡间去。”N显出非常得意模样,忽而又沉下脸来:“现在你们这些理想家,又在那里嚷什么女子剪发了,又要造出许多毫无所得而痛苦的人!”(鲁迅『头发的故事(『鲁迅全集(第一卷)』)』487-488頁)(また女性が髪を切ったとか何やら騒いでいる)

“又在那里嚷什么女子剪发了”では“那儿”が用いられているが,それは,話し手が「女性が髪を切る」という先進的な行いに対して賛成せず,嫌悪感を抱いていると理解できるからである。これは“又要造出许多毫无所得而痛苦的人”(また沢山の何も得られずに苦しむ人を生む)といった表現からも看取できる。つまり,話し手を“这里”とし,話し手とは異なる価値観を持つ聞き手および聞き手の同志達を“那里”として捉えて,両者を区別したのである。

次の(7)では“一个个都是兴高采烈的在那里听先生的讲义”(みんな嬉しそうに先生の講義を聞いている)と“在那里作无边无际的空想”(際限なく空想している)における“那里”について考える。

(7)上课的时候,他虽然坐在全班学生的中间,然而总觉得孤独得很;在稠人广众之中,感得的这种孤独,倒比一个人在冷清的地方,感得的那种孤独,还更难受。看看他的同学看,一个个都是兴高采烈的在那里听先生的讲义,只有他一个人身体虽然坐在讲堂里头,心想却同飞云逝电一般,在那里作无边无际的空想。(郁达夫『故都的秋(『只缘心动说风幡』)』6頁)

まず,前者の“一个个都是兴高采烈的在那里听先生的讲义”について述

べよう。ここで“那里”が用いられたのは、この例の中の“他”にとって「クラスメート」は遠い存在である、ということを示すためであると考えられる。それは、“他虽然坐在全班学生的中间，然而总觉得孤独得很；在稠人广众之中，感得的这种孤独，倒比一个人在冷清的地方，感得的那种孤独，还更难受”（彼はクラスメートの真ん中に座っているのに、いつもとても孤独を感じる。大勢の人の中で感じる孤独は一人で静かな場所において感じるあの孤独感よりもさらに耐え難い）という表現から容易に察し得る。すなわち、自分（“他”）を“这里”とし、嬉しそうに先生の講義を聞く他の生徒たちを“那里”とし、両者を心理的に区切り、その孤独感をはっきりと表現したのである。

次に、“在那里作无边无际的空想”の“那里”も、やはり“他”が孤独であるが故に用いられたと見なしえるが、前方の“只有他一个人身体虽然坐在讲堂里头，心想却同飞云逝电一般”（ただ彼一人の身体は教室にはいるものの、その心は飛び去って行ってしまったかの如く）という文脈から考えると、ここでは、心理的に、彼の心と彼の体との間の距離が離れていると見なすべきである。要するに、彼の病んだ心は、心理的に、教室にいる彼の体と遠く離れているため、“那里”を用いて、彼が如何に孤独で、異常な心境にあるのかを明示させたのである。

なお、以上の考察に従うと、従来の研究者が挙げた“在那儿”構文の例に対してもより適切に解釈することができる。たとえば、丁声树等 1961:154 の“他在那儿写字呢，你别去扰乱他。”（彼は字を書いているから、邪魔するな）は、話し手は「彼が字を書く」という行為を重要視し、聞き手（“你”）に邪魔をされたくないため、“那儿”を用いて、「字を書く」という行為を行う彼（“他”）と聞き手（“你”）との間の距離を心理的に引き離し、二つの領域に区切ったと解釈できる。また、朱德熙 1982:87 の“他在那儿扫地呢。”（彼は掃除をしています）は、話し手にとって、「彼が掃除をしている」という出来事は、関係のない事であると強く認識したため、“这儿”を用いて自分と同じ領域にはせず、“那儿”を用いて心理的に距離を作り、二つの領域として捉えたと理解できる。そして、呂叔湘主编 1999:647 の“人的身体时时刻刻在那里消耗水分”（人間の身体はいつも水を消耗している）は、“时时刻刻”が生起している点からも分かるように、身体の水の消耗は、人の意識に関係なく、知らずうちに、絶えず生じている現象である。よって、“那里”を用いて、この「水を消耗している」と

いう無意識に生じる現象を他の領域と見なして区切り、疎遠的な捉え方をした、と解しえる。これは、上述した(5)の“我这不争气的肚子呀，又在那儿咕咕叫”に対する解釈、つまり、“那儿”を用いて「(お腹が)グググと鳴る」という望ましくない生理現象を疎遠的に捉えた、と見なす解釈と類似している。

さて、次節では、まず、“跟”は、前置詞“在”のように、動作行為が生じる場所を導く役割を果たしえることを確認し、その後、話し手が心理的に遠いと認識した場合には、この“跟”の後方にも“那儿”を用いることができる、ということを示唆し、本稿の“在那儿”構文に対する主張の傍証としたい。

4. “跟”に後続する場所表現について

北方方言の口語では、前置詞“在”の代わりに、“跟”を用いて、動作行為が生じる場所を導く用法がある。まず以下の(8)(9)を見られたい。

(8) 我一个人啊，跟家太寂寞，太孤独。(テレビドラマ『家有儿女(第四部)』第13話)(僕は一人で家にいるとすごく寂しくて、孤独です)

(9) 我不应该一个人跟这儿偷吃汉堡包。(テレビドラマ『家有儿女(第四部)』第43話)(一人でここでこっそりとハンバーガーを食べるべきではない)

(8)では“家”が、(9)では“这儿”が“跟”に後続している。

次の(10)では、話し手Aが“跟”を用いて、“这御膳房的御厨刘金锭师傅是不是跟这儿住啊”(御膳の台所で仕える劉金錠さんはここに住んでいますか)と質問したのに対し、話し手Bは“在”を用いて“在这儿住”(ここに住んでいます)と回答する。故に、ここでの“跟”は前置詞“在”と同じ役割を果たしていると思しえる。

(10) A: 这御膳房的御厨刘金锭师傅是不是跟这儿住啊?

B: 在这儿住。(テレビドラマ『天下第一楼』第7話)

また、“在”は“这儿”を伴って

(11) 陈姐，干吗呢在这儿？(テレビドラマ『家有儿女(第四部)』第49話)
(陳姉さん、何しているのここで)

といったように文末に生起することがあるが、“跟”も、

(12) 你磕什么头啊跟这儿？(テレビドラマ『家有儿女(第四部)』第10話)
(何を額づいているんだここで)

という例がある。

“跟”の後に“哪儿”が生起する例も確認しておこう。

(13) A: 跟哪儿付钱啊？

B: 这边结款。(テレビドラマ『北京青年』第14話) (A: 「どこで支払いですか。」 B: 「こちらです。」)

以下の(14)は“跟”に“那儿”が後続する例である。引用先のテレビドラマを見ると、数十メートル先に立っている人物に対して“那儿”が用いられているのが分かる。つまり、これは話し手が物理的に遠いと認識した際に用いる“那儿”である。

(14) 你看河西呀，跟那儿站了也老半天了，这海风这么冷，就当是惩罚他吧，行不行？(テレビドラマ『北京青年』第16話) (あそこで立つてからしばらく経った)

以上の(8) - (14)の実例により、“跟”は前置詞“在”と同じように、動作行為が生じる場所を導く役割を果たすことができると見なしえる⁶⁾。そこで次は、話し手が心理的に遠いと認識したため、“跟”の後に“那儿”が生起する例を挙げる。

(15) A: 华子，华子。

B: 买点儿什么？……妈。

A: 跟那儿寻思啥呢？(テレビドラマ『小房东』第17話) (何を考えているの)

(15)の“跟那儿寻思啥呢”(何を考えているの)は、母親(話し手A)が娘の“华子”(話し手B)の目の前で言ったセリフである。二人の間の距離は極めて接近していながらも“那儿”が用いられている。なぜなら、引用先のテレビドラマを見ると、はじめに母親(話し手A)は、店番をする娘の“华子”(話し手B)に対して、“华子，华子”と声をかけるが、娘の“华子”(話し手B)は何か考え事をしており、“买点儿什么”(何を求めますか)と言い、自分の母親をお客と間違えてしまう。そして、娘の“华子”(話し手B)は、数秒経ってから、目の前にいる人物が母親だと気づき、“妈”と言うのである。故に、母親(話し手A)は、いつもとは様子が異なり、正常ではない娘の“华子”(話し手B)に一種の疎遠感を覚えたため、“那儿”を用いた、と解しえる。

以下の(16)(17)も話し手と聞き手との間の距離が近いにも関わらず、話し手が心理的に遠いと認識したため、“跟”の後に“那儿”が生起したと

といったような表記となる。この式の全体の読みは「華子が、あそこにおいて、華子が何かを考え、かつ、それ（華子が何かを考える）があそこ存在するということをする」となる。“寻思’（华子，啥）”の部分は「華子が何かを考える」という意味を表し，“在’{ 寻思’（华子，啥），那儿}”の部分は「華子が何かを考えるがあそこ存在する」という意を表している。

5. 結びにかえて

以上，“在那儿”構文について多くの例を挙げて論じたが、これらの例は、いずれも、話し手が物理的あるいは心理的に近いと認識した場合には、“那儿”の代わりに“这儿”を用いることができる⁷⁾。だが、第三節と第四節で多くの実例を用いて証明したように、“那儿”は、話し手や書き手が心理的に遠いと認識した場合に用いられ、話し手や書き手が抱く心理的な距離感が明示される。そこで、木村 2012:64 の「対象が自分にとって遠い存在だと積極的に認識されない限り、(11) のように、近称の{这}で指されてよい」という見解に留意されたい。この見解から“在那儿”構文の生起率は低いと推測することができる。そこで筆者は、実際にテレビドラマ四作（『北京青年』（一話約 45 分、全 36 話）、『当婆婆遇上妈』（一話約 45 分、全 30 話）、『家有儿女（第四部）』（一話約 25 分、全 67 話）、『无懈可击之美女如云』（一話約 45 分、全 36 話））の中から“（NP）+在+那儿+VP”（“在那儿”構文（即ち、話し手が心理的に遠いと認識したために用いる“那儿”が生起した“（NP）+在+那儿+VP”を含む）と“（NP）+在+这儿+VP”の用例を全て収集し、調査を行った。その結果、“（NP）+在+那儿+VP”（“在那儿”構文を含む）は合計 106 例あり、その内、“在那儿”構文、つまり、話し手が心理的に遠いと認識したために用いる“那儿”が生起した“（NP）+在+那儿+VP”は 28 例あった。一方、“（NP）+在+这儿+VP”は合計 241 個の例を収集した。これにより、上で引用した木村 1992:187 の見解が妥当であることが判然とする。では、そのテレビドラマにおける用例収集の結果を表 1 で示すことにしたい⁸⁾。

表1 “(NP) + 在+那儿+ VP” と “(NP) + 在+这儿+ VP” の生起状況

	“(NP) + 在+那儿+ VP”	“(NP) + 在+这儿+ VP”
『北京青年』	22 (3)	70
『当婆婆遇上妈』	10 (0)	39
『家有儿女 (第四部)』	64 (21)	93
『无懈可击之美女如云』	10 (4)	39
合計	106 (28)	241

以上から、『家有儿女 (第四部)』は、“在那儿”構文が他のテレビドラマよりも多く生起しているのが看取できるが、それは、この作品は三人の子供がいる賑やかな家庭を描いたコメディドラマであり、物語は一貫して滑稽で、様々なトラブルが多発し、話し手が嫌悪感や疎遠感といった感情を表すシーンが極めて多い、といったことが大きな要因であると思われる。

また、“在那儿”構文における動詞句は、筆者が収集したテレビドラマの用例をすべて確認すると、話し手にとって望ましくなく、嫌悪感や疎遠感といった感情を表現するのに適したものが圧倒的に多い、ということに気付く。以下の表2を見られたい⁹⁾。

表2 “在那儿”構文に後続する動詞句について

	“在那儿”構文に後続する動詞句
『北京青年』	抛媚眼儿 (媚びを売る), 玩儿手机 (携帯電話で遊ぶ), 找借口 (言い訳をする)
『家有儿女 (第四部)』	逗贫 (ふざける), 跟我说 (私に言う), 咕咕叫 ((空腹で腹が)グググ鳴る), 胡说 (いい加減なことを言う), 紧张 (緊張する), 唠叨 (ぶつぶつ言う), 贫 (無駄口を叩く), 嚷嚷 (騒ぎ立てる), 说那废话 (あんな無駄なことを言う), 瞎猜 (でたらめに当てようとする), 瞎惭愧 (でたらめに恥ずかしく思う), 瞎操什么心 (でたらめに何を心配するんだ), 瞎捣什么乱 (でたらめに何で嫌がらせをするんだ), 瞎闹 (でたらめに騒ぐ), 瞎说 (でたらめに言う), 瞎推测 (でたらめに推測する), 瞎想 (でたらめに考える), 写 (書く), 找 (探す), 转转悠悠 (ぐるぐる歩き回る)
『无懈可击之美女如云』	不冷不热地编故事 (淡々と作り話をする), 臭美 (うぬぼれる), 唧唧歪歪 (ごちゃごちゃ言う), 抡空拳 (拳を振り回す)

上の表2の“写”や“找”等は、これら単独で見ると、嫌悪感や疎遠感といった感情との関わりを連想し難いが、テレビドラマで確認すると、話し手の嫌悪感を容易に察することができる。

さらに、第二節で見たように、“在那儿”は[持続]や[進行]の意を表

すといった指摘をする研究者がいたが、これは、今回収集したテレビドラマの用例に基づいて考えると、その所以が判然とする。というのは、本稿で収集した“在那儿”構文の動詞は、いずれも、概念上、[終息]せず、[持続]の意味特徴を保持していると判断できるからである。つまり、“在那儿”構文は、実際には、述語の部分によって[持続]の意が構築され、“在”と“那儿”は[持続]の意と直接関係を有さないと見なす。[進行]の意については、“在”がその役割を担うと考える。即ち、“在”は、指示代名詞“那儿”を導く役割を果たすと同時に、[進行]の意を表すと見なし、この[進行]の意は述語の部分によって構築された[持続]の意によって保証されていると考えるのである¹⁰⁾。

なお、“在那儿”構文は、丁声树等 1961:154 や朱德熙 1982:87 を見ると、前置詞“在”が省略される場合もあることが分かる。確かに、筆者の現在までの調査によると、前置詞“在”が省略された“那儿”も話し手の心理的な距離感を表すことができると見なしえる。たとえば、以下の(18)は、話し手と聞き手である息子との間の距離が極めて近いが、この息子は、勉学に対しては一切精進せず、食べることにしか精を出さないため、話し手は一種の嫌悪感を覚え、“那儿”を用いたと判断できる。

- (18) 就知道那儿吃，你看看人小雪啊，人家作文儿特别棒，北京市的作文儿比赛都得过特等奖。(テレビドラマ『家有儿女(第一部)』第1話)
(食べることしか脳にないんだから。小雪を見てごらんさい、作文がとても素晴らしくて、北京市の作文大会でも特別賞を獲ったことがあるのよ。)

この点からも、“在”と“那儿”を分けて解釈する必要性を理解することができ、本稿の主張の妥当性を高めうると考えられるが、これについては、多くの事例を基に検証するのが望ましいので、稿を改めて詳述したい。

最後に、本稿は幸いにもこの『言語研究』(第40号(松村文芳教授退職記念号))の中のひとつとして発表することができた。松村先生には、学部入学時から現在までの約十二年間、絶えず情熱あるご指導を賜り、ここで短い言葉を用いて語るには到底足りないほど大変お世話になった。松村先生に深い感謝の意を表したい。今後も松村先生のご指導に恥じぬよう、全力で中国語の教育と研究に励んでいきたい。また、このような貴重な執筆の機会を下さった加藤宏紀先生、彭国躍先生にもこの場を借りて心からお礼を申し上げたい。

注

- 1) 丁声树等 1961:154, 桜井 1966:26, 伊原 1982:3, 朱德熙 1982:87, 呂叔湘 主编 1999:647 を参照した。先行研究については第二節で詳述する。
- 2) 本稿の中国語に対する日本語訳および例文と引用に対する下線は、全て筆者による。また、例文は、体裁を統一するため、繁体字は簡体字に改め、話し手が複数いる場合は、A, B, C を用いて区別する。
- 3) 本稿では“那里”も考察対象と見なし、“那儿”と同等に取り扱うこととする。
- 4) これについては、本稿の第四節と第五節で詳述する。なお、伊原 1982:3 によると、“在那儿”構文は、『水浒传』など明清の白話小説、とりわけ南方系の作品の中で伝統的に用いられる、ということが分かるが、伊原 1982:4 が『水浒传』（上海人民出版社、1975, 『水滸全伝』）から引用した例の中には、慎重に検討すると、“那里”が具体的な場所を指示していると思えしえるものもある。たとえば、

(a) 且说武大挑着担儿，出到紫石街巷口，迎见郓哥提着篮子在那里张望。武大道：“如何？”（25回）

である。ここでの“迎见郓哥提着篮子在那里张望”（郓哥が籠を提げて見張っているのに出くわした）の“那里”は前に生起する“紫石街巷口”（紫石街の路地の入り口）を指示していると解しえる。また、植田均 1982:12-15 では、“在那里”が文末に生起する現象について、『水浒传』から多くの例を用いて、この類の“那里”は、前方に生起する場所表現を指示しえることを指摘し、さらに、多くの根拠を以って、この“那里”は、完全には「虚化」していないと主張した。従って、以上のような見解も踏まえて、本稿では、“在那儿”構文の“那儿”は、話し手や書き手が心理的に遠いと認識した時に用いられ、依然として指示代名詞の役割を果たしていると思なし、とりあえず共時的な視点から集中的に論じることにしたい。
- 5) NP が生起しない例があるため、NP に対しては（ ）を用いて（NP）と表記する。以下同様とする。
- 6) この類の“跟”について、多くの実例を基に論じた研究は、管見の及ぶ限り見当たらないため、本稿で例示する価値があると思われる。
- 7) これは、複数の中国語母語話者のインフォーマント・チェックを受けて判断した。なお、本稿では、“这里”も“这儿”と同等に取り扱うこととする。
- 8) 表1の（ ）内の数字は“在那儿”構文の用例数を示している。
- 9) “在那儿”構文の動詞句は、作品ごとに分け、それぞれピンイン順で列挙する。重複するものは再度列挙しないこととする。
- 10) つまり本稿で例示した“在那儿”構文は、いずれも「活動タイプ」の時相（“活動情状”）を構築すると見なしえる。時相についての詳細は、陈平(1988)、龚千炎(1995)、松村（2017）を見られたい。なお、前置詞“在”と[持続]、[進行]の関係については青木（2015）を参照されたい。

参考文献

- 青木萌 2015.「現代中国語における副詞“在”の意味と論理」,『言語と文化論集(特別号)』, 神奈川大学大学院外国語学研究所。
- 伊原大策 1982.「進行を表す「在」について」,『中国語学』229:1-11頁。
- 植田均 1982.「〈水滸伝〉にみえる文末の“在那里”について」,『中国語学』229:12-21頁。
- 木村英樹 1992.「日本語と中国語の対照研究論文集(上)」,『中国語指示詞の「遠近」対立について—「コソア」との対照を兼ねて』:181-211頁。東京:くろしお出版。
- 木村英樹 2012.「指示詞のダイクシス—「近」と「遠」—」,『中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』:57-86頁。東京:白帝社。
- 桜井明治 1966.「这边・那边・这儿・那儿的指示範囲の研究」,『中国語学』157:21-26頁。
- 松村文芳 2017.『神奈川大学言語学研究叢書8 現代中国語の意味論序説』。東京:ひつじ書房。
- 陈平 1988.「论现代汉语时间系统的三元结构」,『中国语文(第6期)』。
- 丁声树等 1961.『现代汉语语法讲话』:154頁。北京:商务印书馆。
- 房玉清 2008.『实用汉语语法(第二次修订本)』:55頁。北京:北京语言大学出版社。
- 龚千炎 1995.『汉语的时相时制时态』北京:商务印书馆。
- 吕叔湘主编 1999.『现代汉语八百词(增订本)』:647頁。北京:商务印书馆。
- 吕叔湘 2002(1985).「近代汉语指代词」,『吕叔湘全集(第三卷)』:155頁。沈阳:辽宁教育出版社。
- 王亚新 2006.「ソ系指示词的指称功能与汉译」,『日语研究(第四辑)』:22-41頁。北京:商务印书馆。
- 朱德熙 1982.『语法讲义』:87頁。北京:商务印书馆。

引用例出典

- 小説: 鲁迅『鲁迅全集』, 人民文学出版社, 2005年。
- 郁达夫『故都の秋』, 吉林出版集团有限责任公司, 2009年。
- テレビドラマ: 『北京青年』, 北京鑫宝源影视投资有限公司, 北京完美影视传媒有限责任公司, 2012年。
- 『当婆婆遇上妈』, 北京东方在扬文化传播有限公司, 华视影视投资有限公司, 2011年。
- 『花非花雾非雾(TV版)』, 上海创翊, 湖南广电, 合一网络, 2013年。
- 『家有儿女(第一部)』, 北京中视美星国际文化传媒有限公司, 2004年。
- 『家有儿女(第四部)』, 天地人传媒有限公司, 2007年。
- 『天下第一楼』, 北京紫禁城影业有限责任公司, 北京全聚德烤鸭股份有限公司, 中央电视台影视部, 2004年。
- 『无懈可击之美女如云』, 江苏广播电视总台, 2010年。
- 『小房东』, 北京佳桐世纪影视文化传播公司, 2006年。